

審査の結果の要旨

レデスマ ダイアン アティニ アレマンザ

本研究はフィリピンにおける乳がん患者を対象にして米国で始まる6週間グループ心理療法は患者の心理的健康度、疲労、Quality of Life、主観的身体症状への効果を明らかにするためパイロットスタディとランダム化比較試験を実施し6週間グループ心理療法への参加によって上記のような心身への影響に有意な差がみられるかどうかを検証し、下記の結果を得ている。

1. 本研究は、まずパイロットスタディによって米国で始まる6週間のグループ心理療法プログラムはフィリピンの乳がん患者に適するかどうかを検証した。フィリピン・マニラ市の三次がん病院 (University of Santo Tomas Hospital: 以下USTH) に通う外来乳がん患者のうち、後述する参加基準を満たした10名が2009年5-6月にグループ心理療法プログラムを受けた。この10名の患者のグループ心理療法プログラムに対する印象と意見、そしてプログラムのファシリテータと研究者のディスカッションをもとにして、グループ心理療法プログラムの一部をフィリピン患者に適したものにするため変更した。6週間グループ心理療法プログラムはフィリピンの乳がん患者に適することを示した。
2. USTHにて2010年6月-2011年10月にランダム化比較試験をした。対象者40名を2グループにわけた (介入群20名、対照群20名)。介入群は先に6週間グループ心理療法プログラムを受けた。対照群は3か月後に同じグループ心理療法プログラムを受けた。プログラム開始前(T1)、終了直後(T2)及び3か月後(T3) に対象者はPOMS (Profile of Mood States)、EORTC-QLQ-C30、EORTCQLQ-BR23、HADS(Hospital Anxiety and Depression Scale)、Brief COPE、MOS (Medical Outcomes Survey) Social Support Scale、Brief Fatigue Indexに記入した。
 結果は40名のうち7名はドラップアウトし (介入群2名、対照群5名)、2名はがんの再発があった (介入群1名、対照群1名)。更に 対照群の2名のT2データは記入されていなかった。参加した40名の患者の平均年齢は47歳(標準偏差±8.35)、62.5%は既婚、62.5%は大学卒であった。乳がんの段階は57.5%がStage 2、35%がStage 3であった。またこの研究に参加した時点で乳がんの診断と治療を開始してから約1年経過していた。治療として全員の患者が手術を受けていた。90%は化学治療も受け、更に72.5%は放射線治療も受けた。また 58%は維持療法としてホルモン治療を受けていた。
3. 分析した患者は29名 (介入群17名、対照群12名) であった。POMSでは介入群は対照群より低いTotal Mood Disturbanceを示した [$F(2,52)=4.401$, $MSE=3.314$, $p=.02$]。EORTC-QLQ-C30では介入群は対照群より高いQuality of Lifeを示した [$F(2,54)=3.440$, $MSE=120$, $p=.05$]。Brief COPE (コーピングスキル尺度)では介入群はポジティブスキルの中でInstrumental

Support [$F(2,54)=5.528$, $MSE=.328$, $p=.01$]とPlanning [$F(2,54)=3.843$, $MSE=.284$, $p=.03$]を対照群より使用頻度が高かった。一方でネガティブスキルのSelf-blame [$F(2, 54)=3.118$, $MSE=.237$, $p=.05$]は対照群の使用頻度が高かった。

本論文は6週間のグループ心理療法プログラムがフィリピン乳がん患者に対して心身の健康を向上させることを示した。これまでフィリピンではこのような心理療法プログラムはなく、フィリピン人のがん患者を対象として心理的効果を検討した研究は少なかった。本研究は6週間グループ心理療法プログラムがTotal Mood Disturbanceを低下させQuality of Lifeとポジティブコーピングスキルを高めることを明らかにした。以上より、本研究がフィリピン人乳がん患者の心身の健康を向上させるための効果的なサービス提供に貢献することが期待でき、学位の授与に値するものと考えられる。